

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
福島第一原発事故調査に関する小委員会
第24期・第14回議事録

令和1年11月14日
作成 澤田 隆

1. 日時 令和1年10月23日（金）15:00～17:00
2. 場所 日本学術会議 5-B 会議室
3. 出席者 松岡委員長、白鳥、関村、成合、宮野、吉田、澤田幹事（越塚、柘植、中村、矢川、山本欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 第13回議事録案
 - 資料2 第12回議事録案
 - 資料3 原子力規制委員会・規制庁からのヒアリングについて
 - 資料4 「原子力規制の課題とあるべき姿」（提言案）
 - 参考1 第11回議事録案
 - 参考2 福島第一原発事故調査小委員会資料
 - 参考3 提言案

5. 議事

1) 前回議事録の確認（資料1、2）

- ◎ 第13回議事録は、一部修正の上承認された。なお、吉村先生は委員になることを内諾されたので正式手続きを取ることにした。
- ◎ 第12回議事録は、誤字訂正の上承認された。

2) 報告書まとめのスケジュール等の議論

- ◎ 提言等を今期中（9月末まで）に発出するには、下記のスケジュールで考える必要がある。
 - 4月末までに第3部の査読完了
 - 12月末までに原案を固めて第3部に提出
- ◎ 上記工程を考えると二つの提言をまとめるのは無理なので、緊急性の高い「規制の課題とあるべき姿」を優先してすすめることにした。
- ◎ 「規制の課題とあるべき姿」は11月14日に規制庁との打合せがあり、それを反映して原子力安全に関する分科会に上げる必要があることから、下記のように進めることにした。
 - 11月14日の委員会（規制庁との打合せ）は山本先生ご出席（関村先生はご欠席）
 - 規制庁との打合せを反映して、必要あれば山本先生に提言資料を改訂して

戴く（1週間程度）

- ◎ →改訂資料を山本先生から関村先生に送付。関村先生レビュー。
 - 11月27日10:00～小委員会で提言資料を審議
 - 12月2日午前 分科会にて松岡先生が説明し審議戴く（関村先生は海外出張）
 - 分科会コメント等を反映して12月末までに提言資料を完成

3)「原子力規制の課題とあるべき姿」(提言案)(資料3, 4)

- ◎ 関村委員より資料3、4の説明
 - 現在進められている検査制度については触れていない。
 - IRRS のピアレビュー結果を反映した規制庁の対応案が近い内に出ると思われるが、その点も触れていない（出してしまうと、提言の一部が無駄になる？）。
- ◎ 委員より下記の意見が出され、議論があった。
 - 学術会議の指定フォーマット（書き方）に従う必要とのコメントがあったが、完全に従うのは無理なので、指定フォーマット等は参考程度に扱うこととした。
 - 幹事会では文系の人も読むので、そういう方にも分かるように書く必要があるとのコメントがあり、出来るだけ用語の説明を加えることとした。
 - プラント全体のリスクを考えるべきなのに、規制庁は未だ部分的にしか見ていないし、基準類は決定論である。
 - 安全目標（ $100\text{TBq}, 10^{-6}/\text{y}$ ）が議論となった。
 - 米国 NRC は100基に対して3000人の職員だが、日本は(稼働している)9基に対して1000人の職員。単純に基数に比例するものではないだろうが、効率が悪いのではないか？
 - 審議会が本来の機能を果たしていないのではないか？

5) 次回2019年11月14日(木) 13:30～15:00

次々回2019年11月27日(水) 10:00～12:00

以上